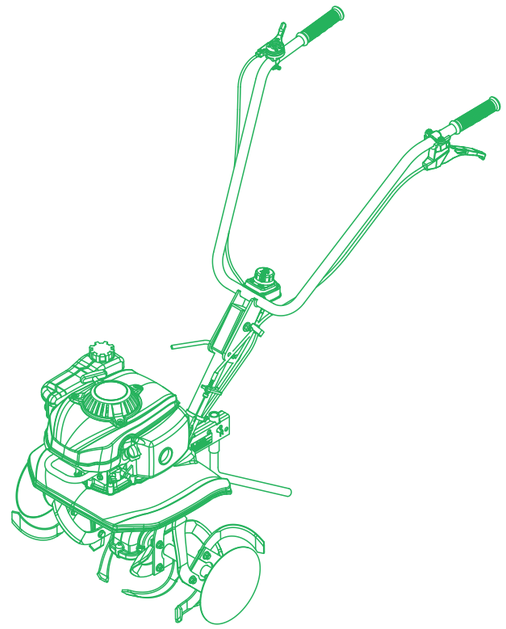
ミニ耕うん機

取扱説明書

MM2



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびはミニ耕うん機をお買いあげ賜わり厚くお礼申し上げます。

●はじめに

この取扱説明書は本機の正しい取扱い方と簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書をいっしょにお渡しください。

・本書では安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、使用者がケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお、本機の品質・性能向上あるいは安全のために使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、本機と一致しない場合がありますのでご了承願います。

●機械の使用目的について

・本機はほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。使用目的以外の作業や安全装置の取外しなどの改造は行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、下記の点を明確にして、お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の商品名(区分)と機械番号(製造番号)は…？

商 品 名(区　　分)

機械番号(製造番号)

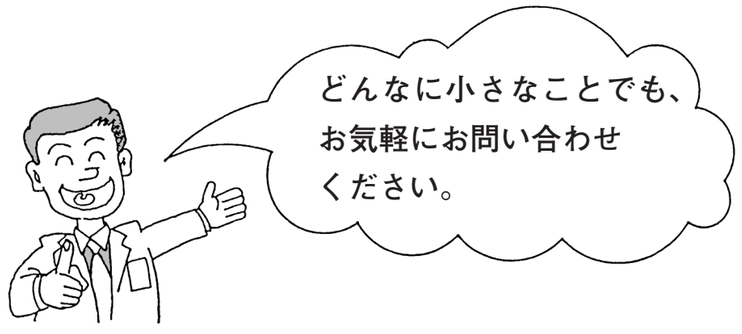
●ご使用状況は…？

(何速で、どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)

こんなとき、こんなことが知りたいとき、ここを見てください！

この取扱説明書は次のように構成されています。まず、**安全作業のために** からお読みいただき、基本事項から操作、点検まで本機の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために安全に関する基本事項、表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用前に 使用前に知っておかなければならないことは？

本機の**保証・サービス**などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称、操作レバー、装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた 本機を動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。

運転操作のしかた：エンジンの始動、走行のしかた、自動車への積み降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた ほ場作業を行うには？

本機作業の基本操作を説明しています。作業機の条件や、ほ場条件にあった調整をして、上手な作業をしてください。

手入れのしかた 本機を長もちさせるには？

本機をいつも正常な状態に保つために手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守、点検してください。

長期格納のしかた 本機を１ケ月以上格納するときは？

本機を長期間格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったときは？

作業中のトラブルや不調、異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

本機に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……(安全作業説明編)

ご使用前に……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．用語について…… 2

各部のはたらき……3

1．各部の名称…… 3
2．運転装置の取扱い…… 4
1．エンジンコントロール関係…… 4
2．運転装置関係…… 5

運転のしかた……7

1．運転前の点検…… 7
2．エンジンの始動と停止…… 8
1．エンジン始動のしかた…… 8
2．エンジン停止のしかた…… 9
3．発進・旋回・停車のしかた……10
1．発進のしかた……10
2．旋回のしかた……10
3．停車のしかた……10
4．自動車への積込み・積み降ろし……11
1．自動車・アユミについて……11
2．乗用車での運搬……12

作業のしかた……13

1．作業前の準備……13
1．抵抗棒の取付け……13
2．ローターの取付け……13
3．ハンドルの上下調節……14
2．ほ場作業のしかた……14
1．ほ場への出入りのしかた……14
2．抵抗棒の使いかた……14
3．上手なほ場作業のしかた……15

手入れのしかた……16

1．定期点検整備……16
2．給油・注油のしかた……17
1．ボルト・ナットの点検……19
3．各部の点検と掃除のしかた……20
1．エアクリーナーの掃除……20
2．点火プラグの点検と掃除……21
3．リコイルスターター部の掃除……21
4．各部の点検と調整のしかた……22
1．クラッチの調整……22

長期格納のしかた……23

1．本機の掃除と洗浄……23
2．エンジンの手入れ……23
3．格納……24
4．再使用するときは……24

不調時の処置……25

1．エンジン部……25
2．本機関係……27

付　　表……28

1．主要諸元……28
2．電気配線図……29
3．主な消耗部品一覧……30
1．本機関係……30
2．作業機関係……30

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ
1．安全作業のしかた……（安-1）
⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）
⚠安全作業のポイント……（安-2）
⚠作業前の一般的な注意事項……（安-3）
⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-4）
⚠エンジンを始動するときは……（安-5）
⚠移動をするときは……（安-6）
⚠自動車への積み降ろしをするときは……（安-7）
⚠ほ場で作業をするときは……（安-8）
⚠１日の作業が終わったら……（安-10）
⚠長期格納するときは……（安-10）
2．表示ラベルについて……（安-11）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を ⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので、よく読んで理解し安全作業に努めてください。
・なお、この項の安全作業の説明は**管理機全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので、よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。

- ●酒気をおびた人
- ●妊娠している人
- ●16才未満の人
- ●指導者のいない運転未熟練者
- ●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な運転操作ができない人

◆運転する人は健康に気をつけて適切な睡眠と休けいをとってください。

➡ 誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機を他人に貸す場合は取扱説明書もいっしょに渡して、安全な作業ができるよう説明してください。

◆本機の運転操作をよく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。

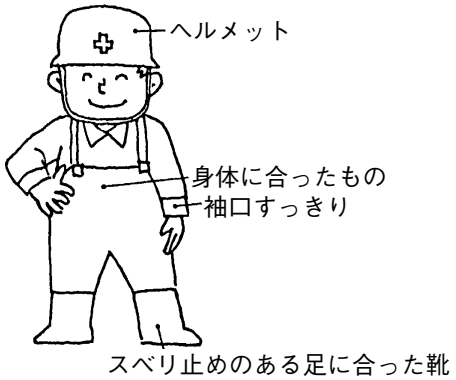
◆本書の内容が理解できない人や、子供には絶対運転させないでください。

➡ 借りた人が不慣れなため思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。

➡ 下図のような服装は衣服が回転部に巻込まれたり、足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。

［良い例］



［悪い例］



⚠ 安全作業のポイント

●取扱説明書、本機のラベルをよく読んでから運転してください。

始業・点検 準備点検

●平坦な場所に本機を置きます。
●エンジン、マフラー、燃料タンク回りを掃除します。
●燃料ホース、電気配線を点検します。
●給油・点検はエンジンが冷えているときに行います。
●各部の締付け、セットピンの脱落はないか確認します。
●燃料補給時は火気を近づけるのは厳禁です。
●クラッチ、レバー関係が働くか点検します。
●取外したカバー類は全て取付けます。
●改造は厳禁です。

エンジン始動

●各操作レバーは取説に従い始動時の位置にします。
●本機の周囲から人を遠ざけます。
●屋内やハウスでの始動は、窓や戸を開けて換気をします。

自動車への積み降ろし

●アユミ板は強度、幅（ローター幅以上もしくは30㎝以上）、長さ（荷台の高さの４倍以上）、すべり止め、フックのあるものを使用します。
●アユミ板は隙間がないものを使用します。
●アユミ板は自動車の荷台に平行にかけ、フックが外れないことを確認します。
●積み降ろしは２人作業で行ってください。
●周囲を確認し、本機の回りに人を近づけるのは厳禁です。
●エンジンを停止し、積込みは後進方向に引き上げ、降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。

移　　動

●ハンドル回動式の場合は正規の位置で行います。
●発進は周囲を確認して行います。
●発進、停止、旋回は低速で行います。
●人や物を本機にのせるのは厳禁です。
●公道および夜間の移動は自動車にのせて行います。

狭い農道、不整地、傾斜地の移動

●スピードを落として走行します。
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使います。
●傾斜地ではクラッチを切るのは厳禁です。
●車を避けるとき、端に寄りすぎないようにします。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所の走行は避けます。

停車・駐車

●平坦な場所でエンジンを停止します。
●傾斜地の駐車は厳禁です。（やむをえないときは輪止めをします）

ほ場作業 ほ場の出入り

●低速であぜに対して直角に出入りします。
●高あぜ、溝越え、急傾斜は隙間がなく、すべらない処理のしてあるアユミ板を使用します。
●あぜがくずれないか確認しゆっくり出入りします。

ほ場での作業

●人を本機のそばに近づけるのは厳禁です。
●旋回は周囲、足元を確認して行います。
●あぜ際での作業は枕地を十分とって旋回します。
●急傾斜地での作業は厳禁です。
●疲れを感じたら無理に作業を続けず休憩をします。
●本機はライトが付いていないので夜間や暗い所での作業は厳禁です。

作業途中の点検

●運転直後のエンジン、マフラーなど高温部に触れるのは厳禁です。
●ローターなどに巻付いた草や土を取除くときはエンジンを停止して行います。
●作業機の脱着は平坦な場所で行います。
●取外したカバーはすべて取付けます。

格　　納 １日の作業が終わったら

●平坦な場所に置きエンジンを停止します。
●高温部が冷えてからエンジン、マフラー、燃料タンク回りを掃除します。

長期格納

●燃料コックレバーを「止」にし、気化器内の燃料を抜取ります。
●カバーはエンジンが冷えてからかけます。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆本機はほ場での耕うん作業にご使用ください。その他の目的では使用しないでください。

➡ 思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆本機の上に人や物を乗せないでください。人を近づけないでください。

◆共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆本機は改造しないでください。

➡ 改造すると本機の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆本機を使用する前後に点検を行い、異常箇所は直ちに整備してください。

◆シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。

➡ 整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

◆換気が不十分な所では暖機運転や作業は行なわないでください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆本機の点検・整備・掃除は平坦な場所でエンジンを停止してから行なってください。

➡ 傾斜地では本機が動きだし思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠危険 ◆給油、注油、点検時はエンジンを停止させてください。エンジン回転中やエンジンが熱い間は給油、注油をしないでください。

◆燃料補給は火気のない所で行なってください。くわえタバコなどは厳禁です。

●燃料を補給したときは燃料キャップを締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

●エンジン始動前に給油、注油、各部の点検を行なってください。

➡ 燃料などに引火し、ヤケドや火災の原因となることがあります。

⚠警告 ◆各部のボルト・ナットのゆるみ、セットピンの脱落、損傷はないか確認してください。

●クラッチ、レバー関係などの操作部は確実に働くように調整してください。

➡ 思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆エンジンオイルなどの油脂類や不凍液の廃却は、廃棄設備のある場所で処理してください。

➡ 環境汚染の原因となります。

⚠警告 ◆エンジン、マフラー、燃料タンクまわりにワラクズやゴミなどが付着していないか作業前に点検し、付着していれば取除いてください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は適正な管理をし、正しく使用してください。

◆本機には点検調整に必要な工具類を常備しておいてください。

➡ 整備不良で事故を引起こすおそれがあります。

⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは全て取付けてください。

●カバーは正しく取付けてください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆電気配線のコードが他の部品に接触していないか、はがれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。

➡ ショートしてヤケドや火災の原因となります。

⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆始動する前に周囲を確認し、本機の周囲から人を遠ざけてください。

➡ 人が近づくと傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆屋内やハウス内などでの始動は窓や戸をあけて換気を十分にしてください。

➡ 排気ガス中毒で気分が悪くなったり、酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。

⚠警告 ◆クラッチの《切》を確認してください。

◆始動は正しい姿勢で行なってください。

- 足場の不安定な場所での始動は行わないでください。やむをえない場合は本機を固定し、水平な状態で行なってください。
- 周囲を確認し、合図してから始動してください。

➡ 人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆暖機運転はクラッチを《切》にして、平坦な場所で行なってください。

➡ 本機が動き出し人身事故や傷害事故の原因となることがあります。

⚠移動をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆発進するときは本機の回りから人を遠ざけて、低速で発進してください。

●ローターを回転させたまま移動しないでください。

➡ 傷害事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆人や物を本機にのせないでください。

●道のりが遠くても、その他どんな場合でも人を作業機の上にのせないでください。

◆公道および夜間の移動は自動車にのせて行なってください。

➡ 傷害事故の原因となることがあります。

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。

●車を避けるとき、端に寄りすぎないでください。

●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。

●雨天、雨あがりのときは低速で慎重に移動してください。

➡ 路肩がくずれ、横転事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆停車、駐車をするときは平坦な場所に置き、エンジンを停止してください。

●傾斜地には駐車しないでください。やむをえず傾斜地に止めるときは本機の安定を確認し、輪止めをしてください。

➡ 本機が動き出して事故の原因となります。

⚠自動車への積み降ろしをするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆荷台から本機がはみ出さない自動車を使用してください。

- 自動車は変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車)に入れ、駐車ブレーキをかけ、輪止めをします。

➡ 思わぬ事故を引起こします。

⚠危険 ◆乗用車などの密閉空間になる状態で本機を運搬する場合は、燃料タンクおよび気化器内の燃料を完全に抜き取ってから積込んでください。

➡ 燃料が気化し室内にガソリン臭が充満したり、燃料洩れが発生し火災の原因になります。

⚠警告 ◆アユミ板は強度、幅（ローター幅以上もしくは30㎝以上）、長さ（荷台の高さの４倍以上）、すべり止め、フック付き、耕うん爪が引掛からないものを使ってください。

- 本機の質量に耐える強度のもの（金属製）を使用してください。
- 幅がローター幅以上で、長さが荷台高さの４倍以上あるすべり止め付、フック付のものを使用してください。
- アユミ板は隙間がないものを使用してください。

➡ アユミ板が外れたりして転倒事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆アユミ板を荷台に平行にかけてください。

- アユミ板は荷台に対して真っ直ぐにかけてください。
- 荷台にかけた端が外れないようにフック付のアユミ板を使用してください。
- エンジンを停止し、積込みは後進方向に引き上げ、降ろすときは後進方向に引き降ろしてください。
- 積み降ろしは２人作業で行ってください。
- 本機の回りに人を近づけないでください。

➡ バランスがくずれて転倒事故を起こすことがあります。

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆急傾斜、溝越え、高あぜのあるほ場への出入りは隙間がなく、すべらない処理がしてあるアユミ板を使ってください。

◆あぜ越えは低速であぜに対して直角に出入りしてください。

●アユミ板を使用するときはエンジンを停止し、引き上げてください。

●あぜがくずれないか確認しゆっくり行なってください。

➡ バランスをくずしたりして転倒事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆作業中は本機のそばに人を近づけないようにし、わき見運転や手ばなし運転をしないでください。

◆いつでもクラッチが切れる姿勢で運転してください。

➡ 傷害事故の原因となります。

⚠警告 ◆旋回するときは周囲や足元を確認し、あぜの上にあがったり、土手ぎりぎりで旋回しないでください。

●あぜ際での作業は枕地を十分にとって余裕をもって旋回してください。

●足にあった長靴、田から足が抜けやすい靴を着用してください。

➡ 傷害事故を引起こすことがあります。

⚠警告 ◆ロータなどに巻付いた草や土を取除くときやロータ爪の交換をするときは、平坦な場所でエンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

➡ 巻き込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラスなどを取除いてください。

◆作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、損傷を調べてください。
損傷したまま再始動しないでください。

➡ 回転している爪に異物が当たると強い力で異物が飛び散り、傷害事故を起こしたり、また損傷したままの本機を使用すると思わぬ事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆夜間作業を行わないでください。

➡ 本機に巻き込まれたりして傷害事故を起こすことがあります。

⚠警告 ◆急傾斜地では作業をしないでください。

➡ 転倒事故を引起こす原因となります。

⚠警告 ◆作業途中で点検するときは高温部に触れないでください。

- 点検、掃除はエンジンを停止し、高温部は冷えるまでは直接触れないでください。
- 取外したカバーは全て取付けてから作業を開始してください。

➡ ヤケドすることがあります。

⚠警告 ◆ハウスや小屋の中で作業するときは背後や支柱際の障害物を確認しながら行なってください。

- 支柱やカモイに頭を打ったりハンドルを引っかけたりしないようにしてください。
- 支柱際の作業での旋回はハンドルを壁と反対側の広い方に回して旋回してください。

➡ 本機と支柱の間にはさまれたりして傷害事故を引起こすことがあります。

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い、掃除をしてゴミなどを取除いてください。

●高温部が冷えてからエンジン・マフラー・燃料タンク回りのゴミなどを除去・掃除を行なってください。

●掃除後指定箇所に注油してください。

➡ 火災の原因となることがあります。

⚠警告 ◆カバーをかける場合はマフラーやエンジンが冷えてから行なってください。

➡ 火災事故を引起こすことがあります。

⚠長期格納するときは……

必ず守ってください ➡ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆各部を水洗いして平坦なところで本機を安定させて格納してください。

●故障箇所、爪の摩耗があれば早目に修理、交換してください。

●ボルトやナットがゆるんだ状態であれば直ちに締めつけてください。

➡ 思わぬ事故の原因になることがあります。

⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。

● 1 年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。

◆燃料を抜取ってください。

●燃料腐食で気化器内部を腐食させるので燃料コックレバーを《止》にし、気化器下側のプルドレンから気化器内の燃料を抜取ってください。その際、燃料は適切な容器で受けてください。

2. 表示ラベルについて

本機には各運転装置の近くに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

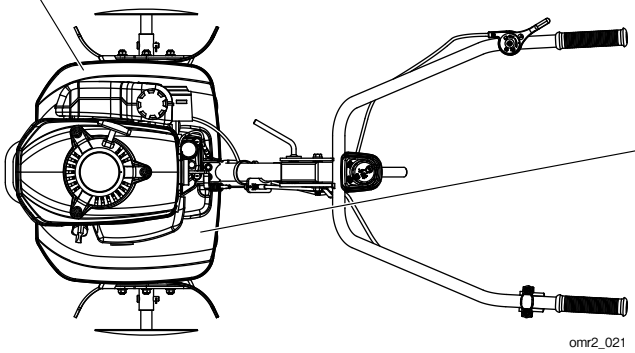
また、本機に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

①



②



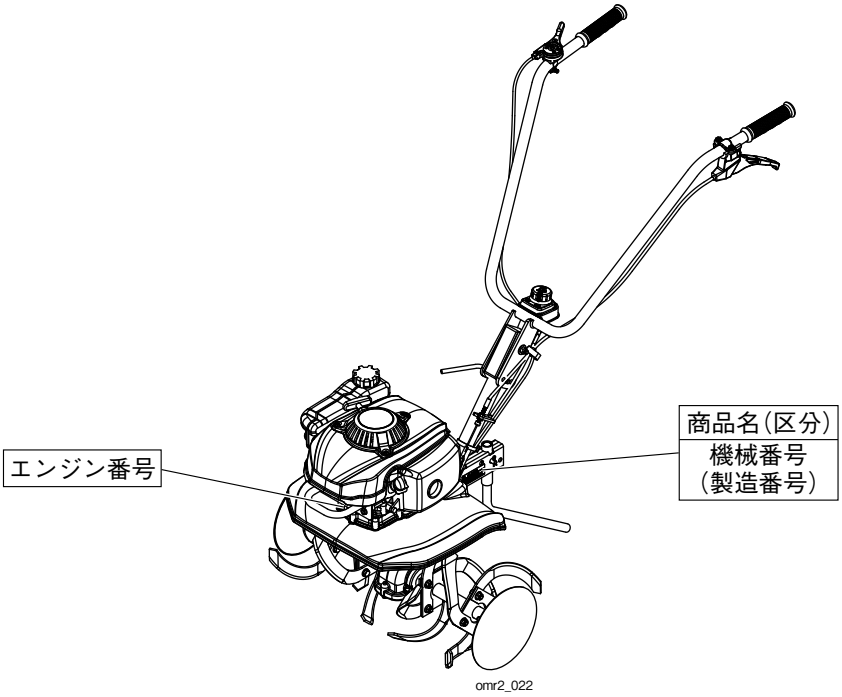


No.	部 品 名 称	部 品 番 号	備 考
①	ラベル（ケイコク）	OMR2 3505 000	
②	ラベル（チュウイ、ケイコク）	OMR2 3506 000	

ご使用前に

1．保証とサービスについて

・本機には保証書が添付されていますので、ご使用前によくお読みください。
・本機のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。
その際「**商品名（区分）**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

・補修用部品の供給は原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

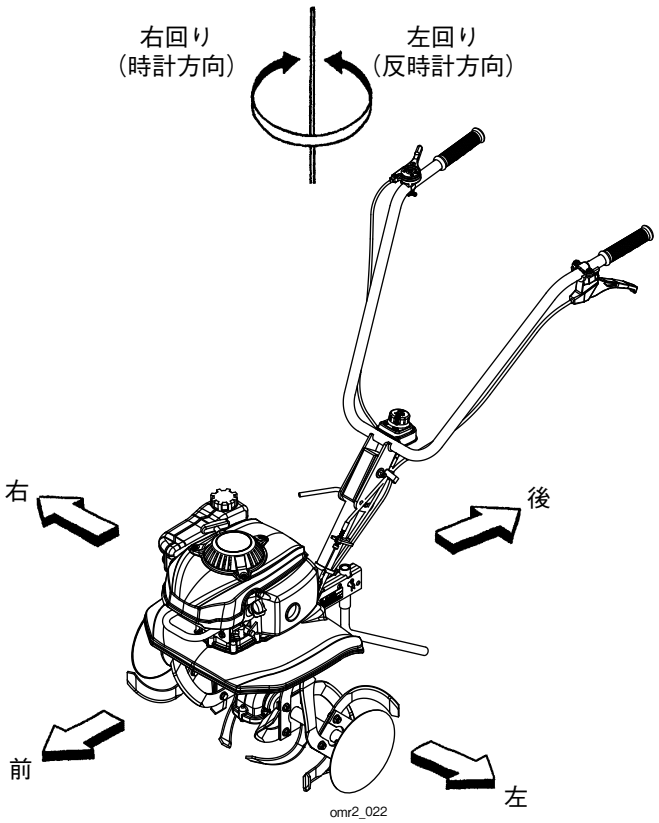
本機の使用目的について

・本機は**ほ場での耕うん作業、農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください**。使用目的以外の作業や改造などは行わないでください。
・本機を使用目的以外の作業に使用したり、改造したりした場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。詳細は保証書をご覧ください。

⚠警告
◆本機を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆本機を改造しないでください。改造すると本来の機能を発揮できないばかりか、人身事故の原因になることがあります。

2. 用語について

❶ この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は図示のように決めています。



❷ **マークの説明**

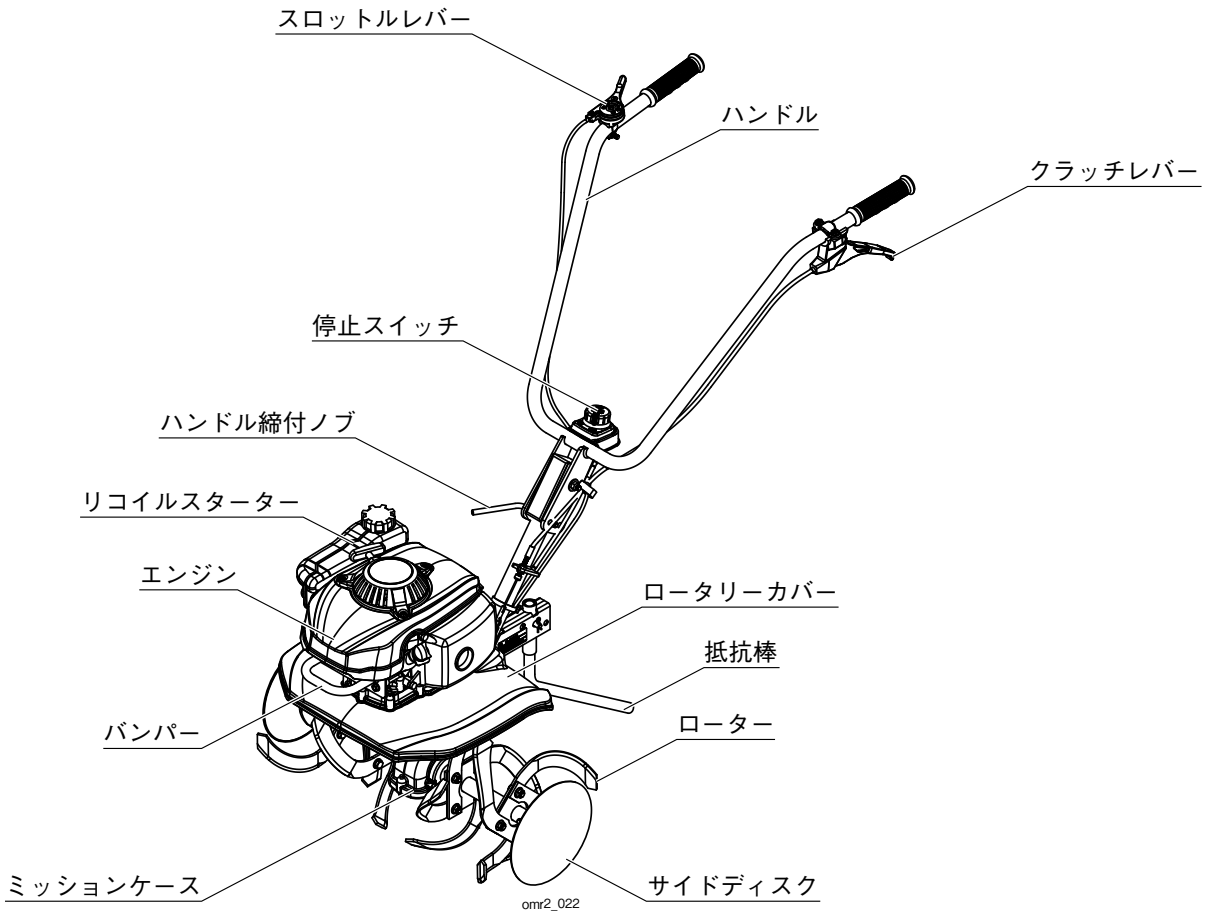
この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

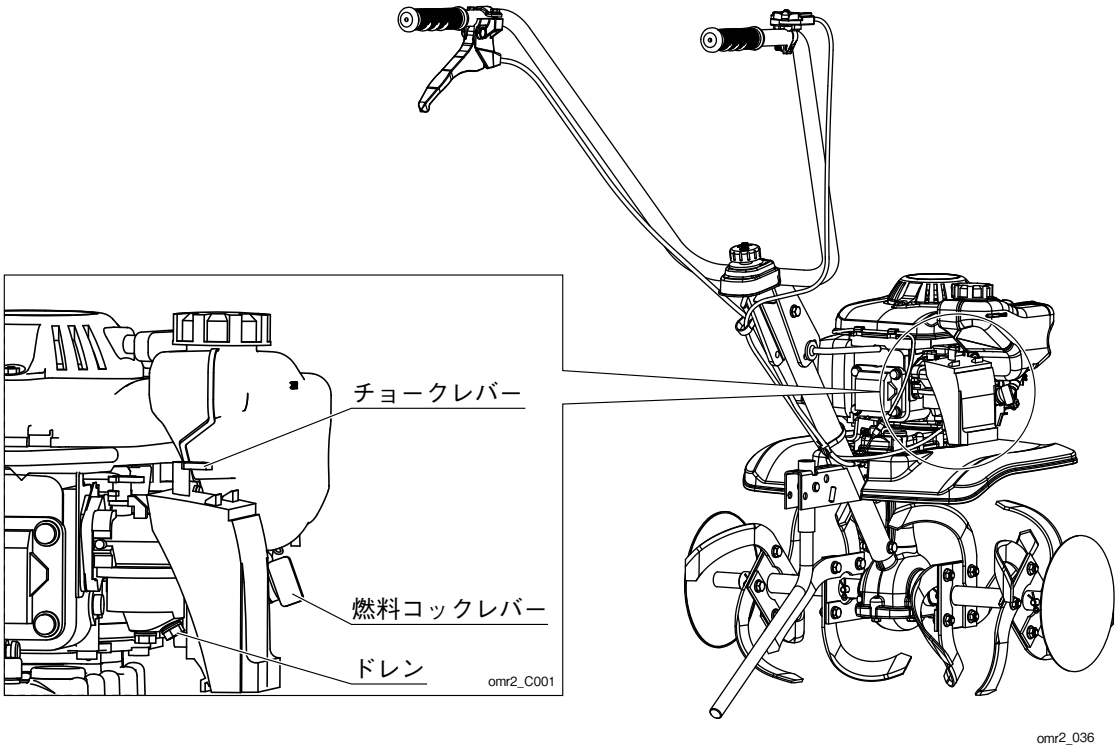
・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……本機の性能を最大限に発揮するための説明です。守らないと故障の原因になることもあります。

各部のはたらき

1．各部の名称



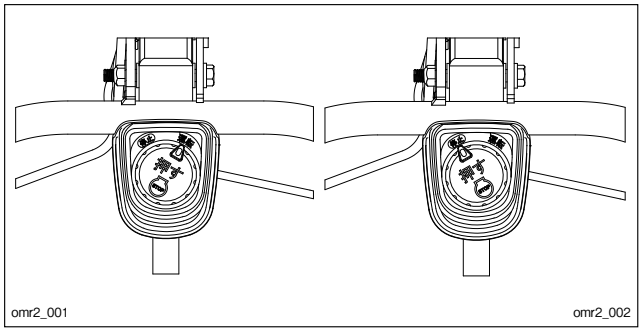


2. 運転装置の取扱い

1. エンジンコントロール関係

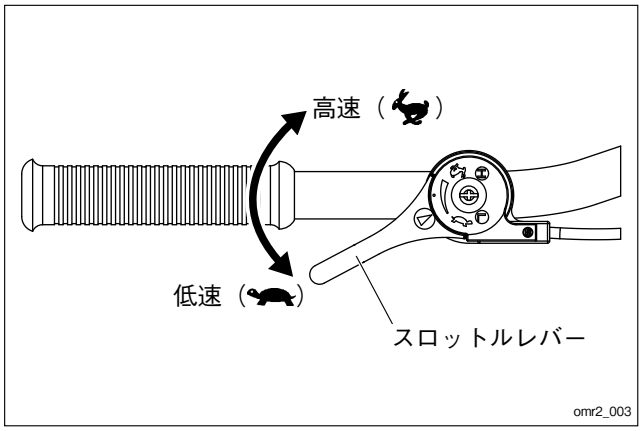
❶ 停止スイッチ

エンジンを始動するときは右に回し、停止するときはスイッチを押します。



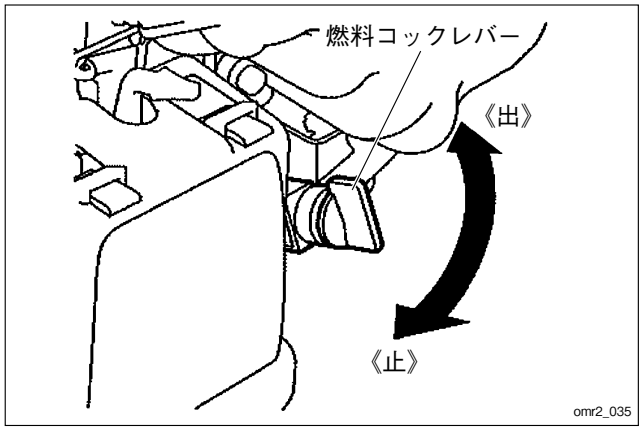
❷ スロットルレバー

・《**低**》……右方向に回すと「**低速**」になります。
・《**高**》……左方向に回すと「**高速**」になります。
エンジン始動時は「**中間**」にします。



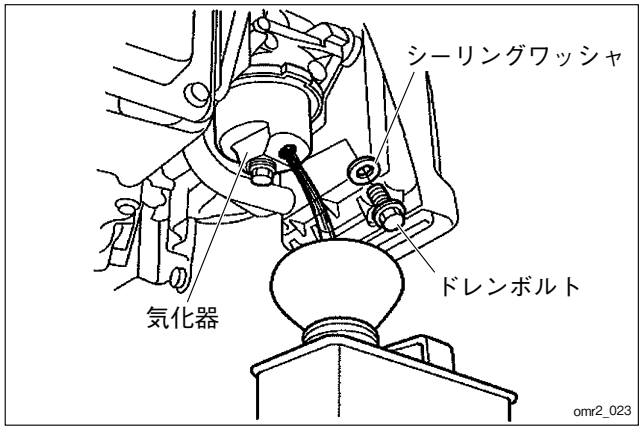
❸ 燃料コックレバー

タンク内の燃料を出したり、止めたりするときに操作します。



❹ ドレン抜き

気化器内の燃料を排出するときに使用します。

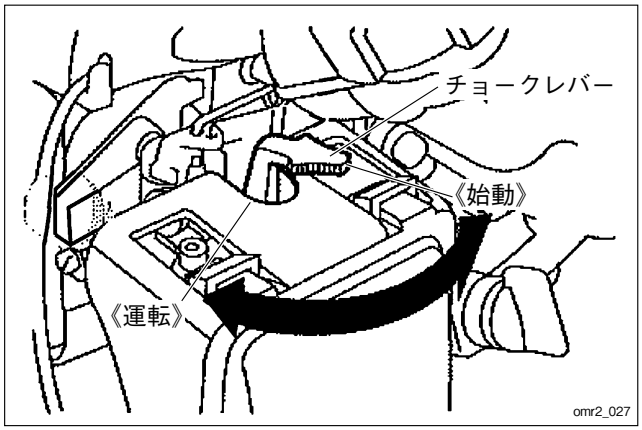


・燃料コックレバーを《**止**》にしてからドレンボルトをゆるめます。
・流れ出る燃料は適切な容器で受けてください。

❺ チョークレバー

エンジンを始動するときに使用します。

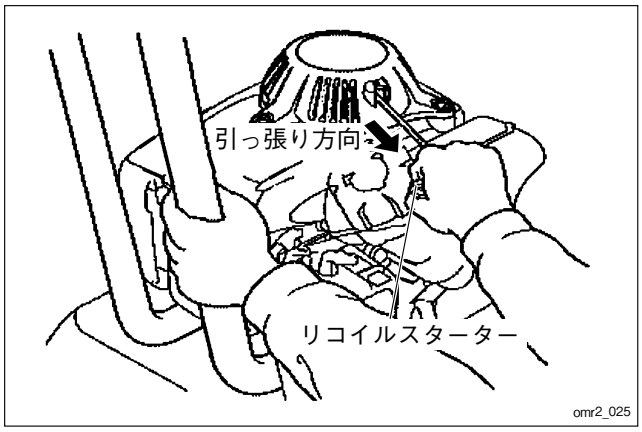
寒いときやエンジンがかかりにくいときに始動位置に合わせます。



❻ リコイルスターター

エンジンを始動するときに使用します。

リコイルスターターの握りを勢いよく引いてエンジンを始動します。本機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



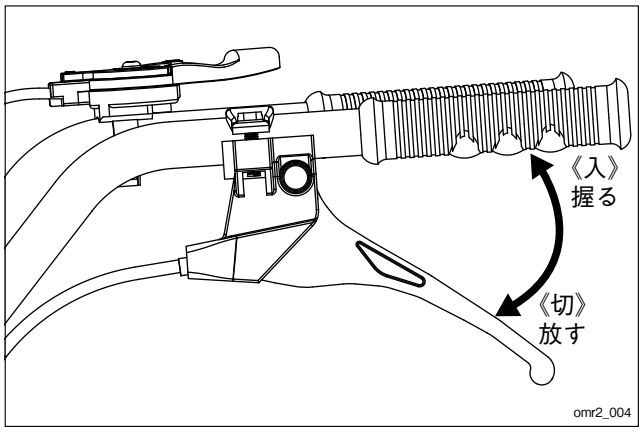
2. 運転装置関係

❶ クラッチレバー

車軸（ローター軸）の動力を《**入**》、《**切**》するときに操作します。

クラッチ《**入**》操作は、クラッチレバーを握ります。

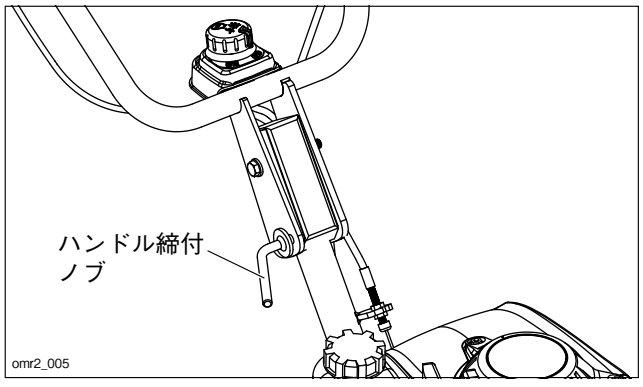
クラッチ《**切**》操作は、握っているレバーを放します。



❷ ハンドル締付ノブ

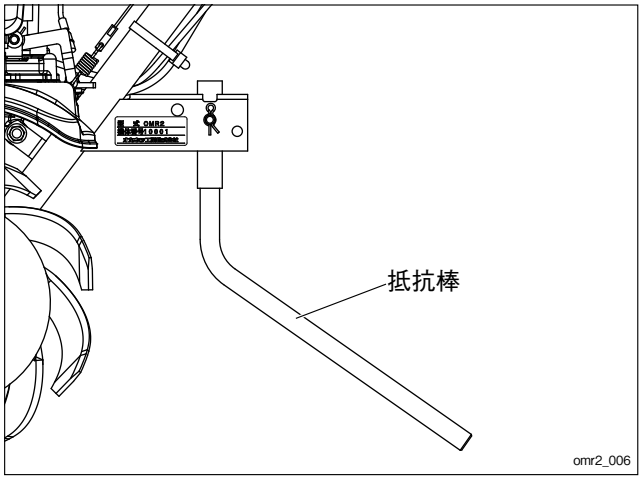
ハンドルを使用する人の体格や作業の種類に合わせて使いやすい高さに調節するときに使用します。

調節はハンドル締付ノブをゆるめて調節します。（3段調節、差替え）



❸ 抵抗棒

耕うん深さと作業速度のバランスを取るために使用します。



運転のしかた

1．運転前の点検

安全作業のために毎日の運転前に「**運転前の点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止してから行なってください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気に近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆燃料タンクに、傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し、傷や漏れがあれば交換してください。

「**運転前の点検表**」

	点検箇所		処置
運転前に	エンジンクランクケースの油量	・給油栓にあるレベルゲージの上限まで油面があるか。	・油面が給油栓レベルゲージの上限になるまで補給する。（18ページ参照）
	燃料タンク	・作業に必要な燃料があるか。	・無鉛ガソリンを補給する。（18ページ参照）
	エアクリーナー	・ろ過部が汚れてないか。	・掃除する。（20ページ参照）
	リコイルスターターの吸気口	・吸気口の目詰まりはないか。	・掃除する。（21ページ参照）
	エンジン、マフラー、燃料タンク周囲	・ワラクズなどのゴミがたまってないか。	・掃除する。
	耕うん爪	・爪が確実に固定されているか。 ・爪が摩耗していないか。	・取付部を締付ける。 ・爪を交換する。（13ページ参照）
	各部の注油	・油切れはないか。	・適量の注油をする。（17～19ページ参照）
エンジンを始動して	クラッチレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。（５、27ページ参照）
	スロットルレバー	・ゆっくりとレバー操作をしたとき正常に作動するか。	・異常箇所を調べ処置する。（４ページ参照）
	停止スイッチ	・スイッチを操作したときエンジンが停止するか。	・異常箇所を調べ処置する。（４ページ参照）

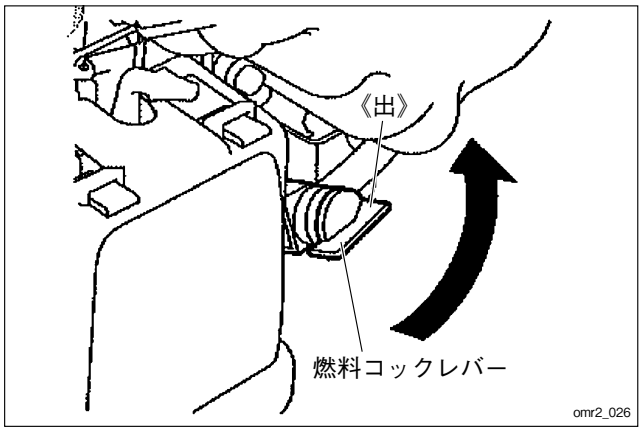
2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

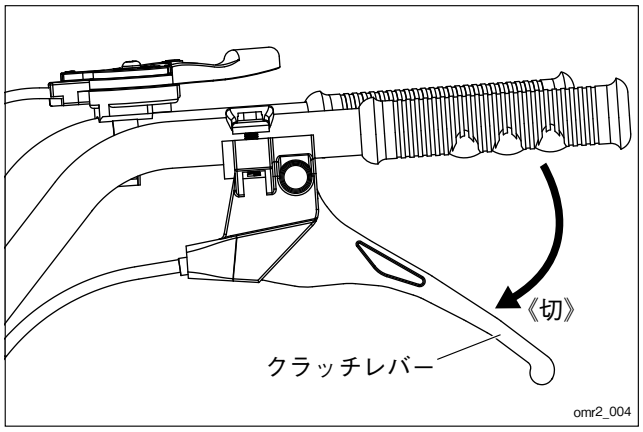
◆本機を平坦な広い場所に置き、マフラー、テールパイプ付近の燃えやすいものは取除いてください。
◆ハンドルを離しても本機が動かないように抵抗棒またはローターで安定させます。
◆点検などで取外したカバー類はすべて取付けてください。
◆エンジンを始動するときは、クラッチレバーを《切》にしてください。
◆マフラー排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆屋内やハウスでの始動は窓や戸を開けて換気を行い、排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆マフラーやエンジンには冷えるまで触れないでください。熱いときに触れると「ヤケド」をすることがあります。
◆リコイルスターターを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

1. エンジン始動のしかた

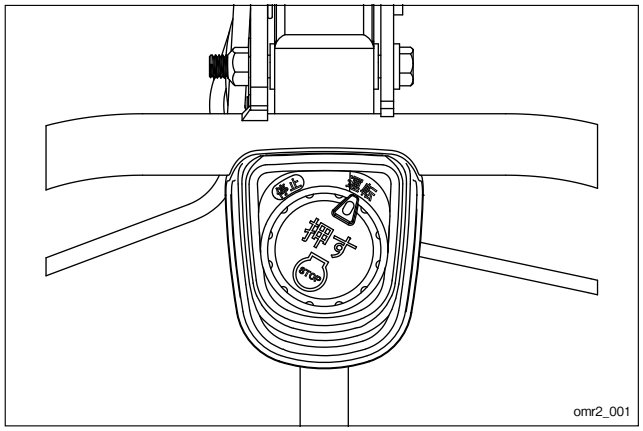
❶ 燃料コックレバーを《**出**》位置に合わせます。

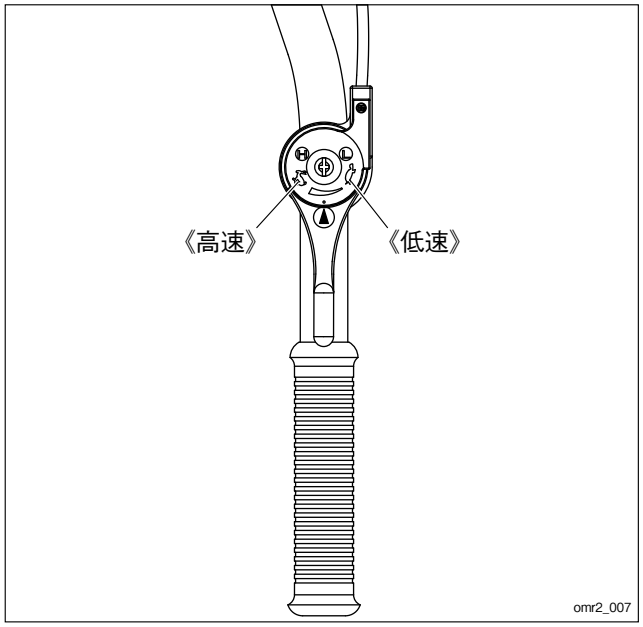


❷ クラッチレバーを《**切**》にします。

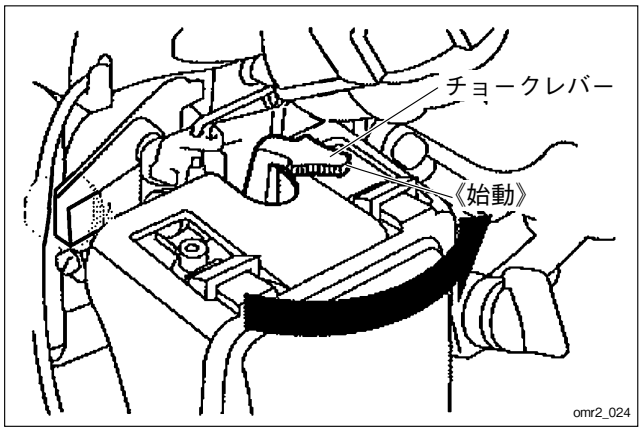


❸ 停止スイッチを《**運転**》位置にしスロットルレバーを「**低速**」と「**高速**」の中間にします。

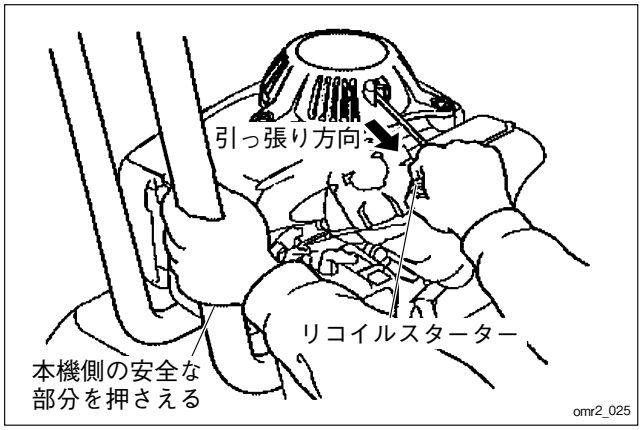




❹ チョークレバーを《**始動**》の位置にします。
エンジンが暖まっているときは、操作不要です。



❺ 本機側の安全な部分をしっかり押さえ、リコイルスターターを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



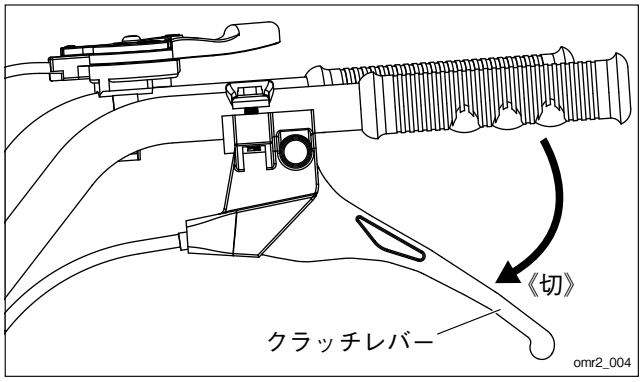
❻ エンジンが始動したらエンジンの調子を見ながらチョークレバーを徐々に戻します。

取扱いのポイント

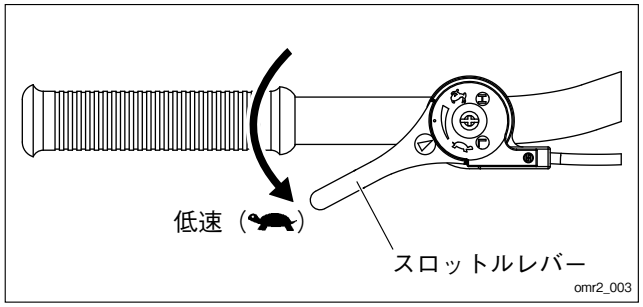
- **リコイルスターターは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。**
- **リコイルスターターを引いたまま手を放さないでください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。**
- **運転中はリコイルスターターを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。**

2. エンジン停止のしかた

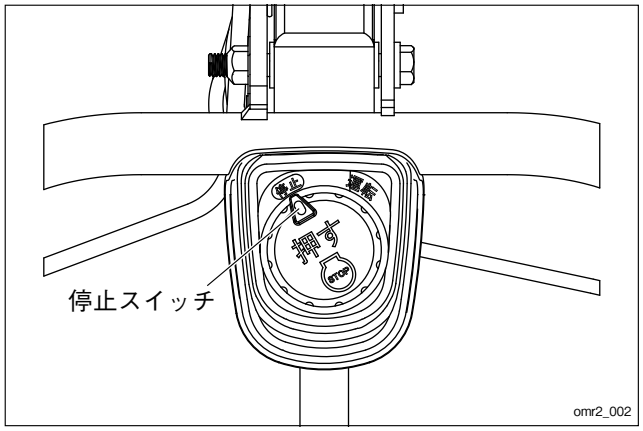
❶ クラッチレバーを《**切**》にします。



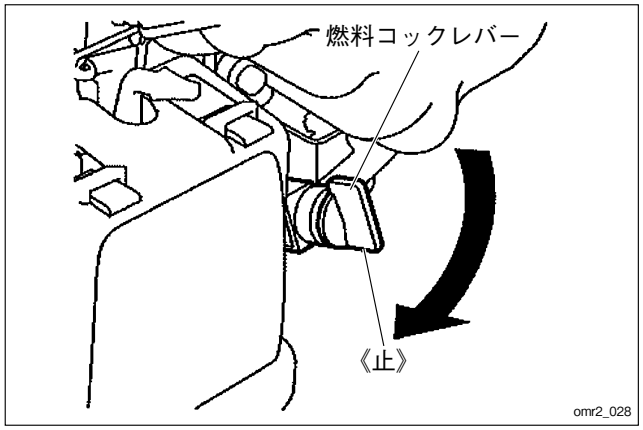
❷ スロットルレバーでエンジン回転を最低速にします。



❸ 停止スイッチを押して《**停止**》にします。



❹ 燃料コックレバーを《**止**》の位置にします。



3. 発進・旋回・停車のしかた

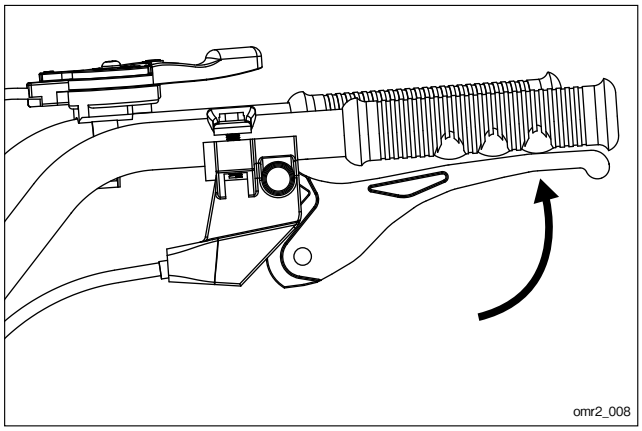
1. 発進のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆クラッチレバーを急激に操作すると急発進したり、エンジンが停止したりしますので徐々に《入》にしてください。

❶ スロットルレバーを《**低速**》にします。

❷ クラッチレバーを握ると発進します。



❸ スロットルレバーを操作し、エンジン回転を上げます。

2. 旋回のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは、足元を確認してローターに巻込まれないようにしてください。

ハンドルを持上げてスロットルレバーを《**低速**》にして旋回してください。

3. 停車のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆本機を止めるときは平坦な場所を選んでください。

◆燃えやすいものの近くには停車しないでください。

◆エンジンが熱いときはシートカバーをかけないでください。「火災」の原因になります。

❶ クラッチレバーを放します。

❷ スロットルレバーを《**低速**》にします。

❸ 停止スイッチを操作してエンジンを停止します。

❹ 燃料コックレバーを《**止**》にします。

❺ 長時間使用しないとき（１ヶ月以上）は、ドレンボルトをゆるめ、気化器内の燃料を抜きます。流れ出る燃料は容器で受けてください。

取扱いのポイント

- **エンジンを停止するときは２～３分間低回転で運転してから停止してください。**
- **本機（エンジン）が傾斜した状態でエンジンを停止したときは、燃料コックレバーを《止》の位置にしてください。燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。**
- **エンジンを停止したあと長期間使用しないときは、リコイルスターターで圧縮位置にしてください。**

4. 自動車への積込み・積み降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは、まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び、運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守って、慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆アユミが傾いたりしない平坦な場所を選んでください。
◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を後進（バック）に入れ、タイヤに歯止めをしてください。
◆アユミは本機の重量に耐える強度、幅（ローター幅以上もしくは30㎝以上)、長さ（荷台高さの４倍以上）のある、すべり止め、フック付きのものを使用してください。
◆アユミのフックは段差のないように、またずれないように荷台に確実にかけてください。
◆積込み・積降ろしは補助者立会い誘導のもとに行なってください。また本機の周囲に人を近づけないでください。
◆積込み・積降ろしは、エンジンを停止し、クラッチレバーを《切》にして、積込みは後進方向に引上げてください。また、積降ろしは後進方向に引き降ろしてください。
◆ローターがアユミに引っかからないようにしてください。
◆自動車で本機を輸送中は、急発進・急停止をやめ、カーブでは、減速してください。本機の落下などの事故を起こすことがあります。

1. 自動車・アユミについて

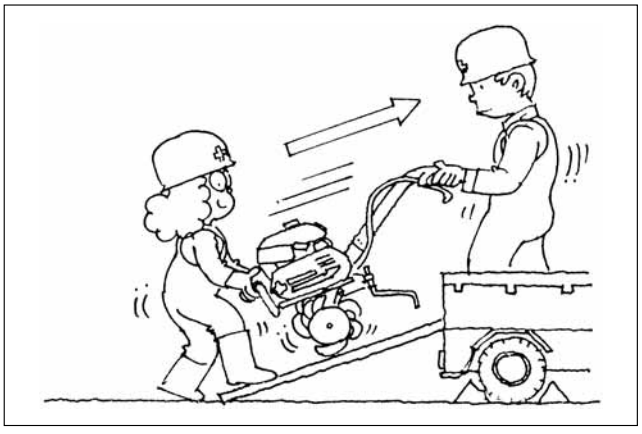
❶ 本機質量の積載を満たす自動車で荷台からはみ出さない車を使用します。
❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ、変速を後進（バック）に入れ、タイヤに歯止めをします。
❸ アユミは、本機の重量に耐える強度、幅（ローター幅以上もしくは30㎝以上)、長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き、フック付きのものを使用します。
❹ アユミは本機の車輪幅に合わせて自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ、横ずれしたり、はずれたりしないか確認します。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	ローター幅以上もしくは30㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が200kg以上の質量にたえるもの

・トラックへの積込み

❶ エンジンを停止して行います。
❷ 積込みは後進方向で引き上げます。
❸ 降ろすときも後進方向で引き降ろします。
❹ 積込み後はローター部に歯止めをします。
❺ 本機は抵抗棒を自動車の荷台の床に付けて、ロープで固定します。作業機が付いている場合は本機を安定させた状態でロープで固定します。



2. 乗用車での運搬

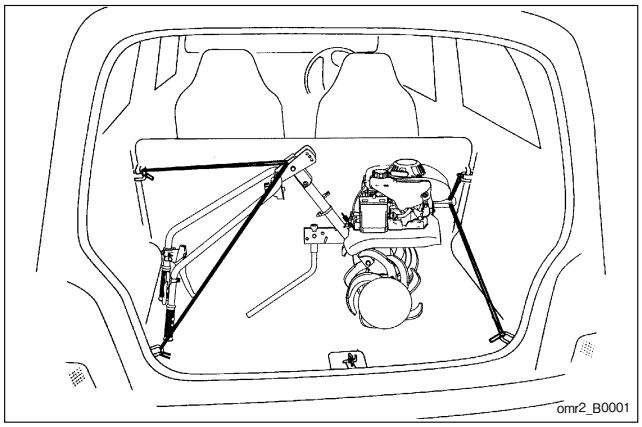
平坦な場所に自動車を止め、2人以上で積み降ろしを行ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所を選んでください。
◆自動車は駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、変速を「後進」(MT車)、「P」(AT車)に入れ、タイヤに輪止めをしてください。
◆積み降ろしは2人以上で行ってください。

⚠危険 傷害事故防止のために

◆乗用車などの密閉空間になる状態で本機を運搬する場合は、燃料タンク内および気化器内の燃料を完全に抜き取ってから積込んでください。



❶ エンジンを停止し、燃料タンク内の燃料を完全に抜きます。
❷ ドレンボルトを外し、キャブレータ内の燃料を抜きます。
❸ 燃料コックレバーを《**止**》にします。
❹ ハンドル締付ノブを外して、ハンドルを折りたたみます。
❺ この状態で取っ手とフレームを持って持ち上げ乗用車に積込みます。
❻ 本機は乗用車の床に安定した状態で積み、動かないようロープで固定します。

作業のしかた

1．作業前の準備

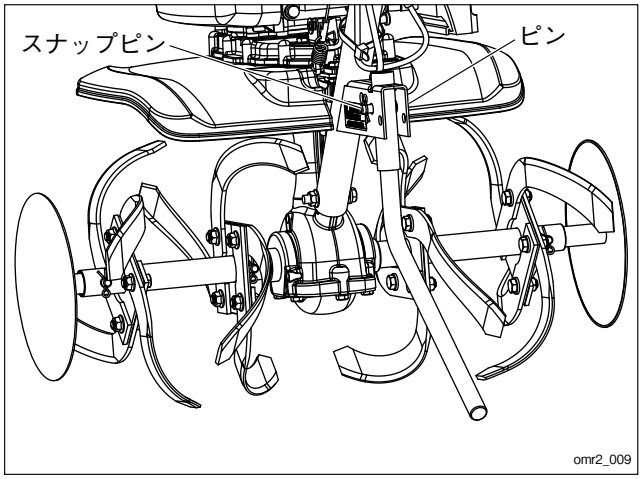
⚠警告 傷害事故防止のために

◆この本機は、正転耕うんのため、ほ場のかたさにより本機が飛出すことがあります。

1．抵抗棒の取付け

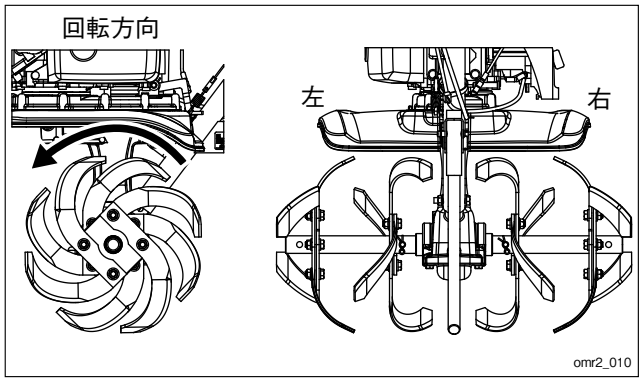
ヒッチ部は、抵抗棒・培土器などを取付ける部分です。

抵抗棒の取付けは、使用したい希望の高さにピンを差込み、スナップピンで固定します。

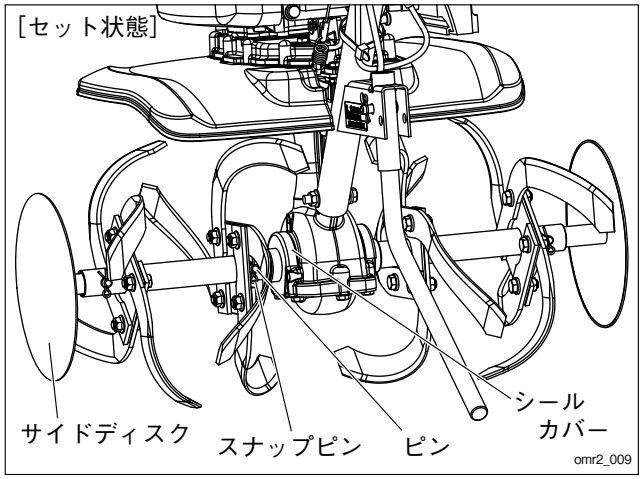


2．ローターの取付け

❶ 耕うん爪は左右対称になるように組付けしてください。



❷ 爪を組付けたローター軸とサイドディスクを下図のように本機に取付けます。



・中耕車輪、カルチ車輪などをご使用の際は、本機ローター軸のピンとスナップピンを装着します。

・シールカバーは常に装着するようにします。

取扱いのポイント

●車輪および車輪アタッチメントを交換するため、本機を大きく傾けるときは、燃料コックレバーを《止》にしてください。
燃料コックレバーを閉じないで交換作業をすると、燃料がオーバーフローし、エンジンが始動困難になることがあります。

●シールカバーを装着しないで作業するとオイルシールが破損し、ミッションオイルが漏れ出ることがあります。

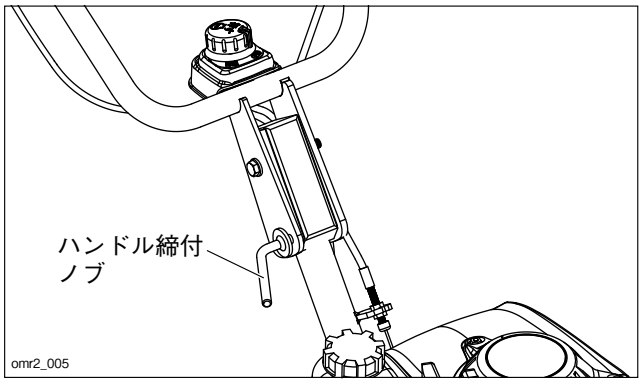
3．ハンドルの上下調節

ハンドルは、使用する人の体格や作業の種類に合わせて使いやすい高さに調節します。

調節はハンドル締付ノブをゆるめ別の穴に付け替えることで、行ないます。

ハンドル締付ノブをゆるめたときは確実に締付けます。

ハンドル高さを調節するときに、ワイヤーなどに余裕があることを確かめてください。



2．ほ場作業のしかた

1．ほ場への出入りのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは、低速であぜに直角に行なってください。
◆高あぜ・急傾斜・溝越えは爪の引っかからないアユミを使用してください。
◆アユミを使用するときは、エンジンを止めて引上げてください。
◆あぜがくずれないことを確認してから、ゆっくり行なってください。

❶ ほ場への出入りやあぜ越えは低速であぜに直角に行います。

❷ 高低差が大きいほ場への出入りはアユミを使用し、エンジンを止めてクラッチレバーを《**切**》にして本機を引上げます。

2．抵抗棒の使いかた

❶ 耕うん深さを深くしたいときは抵抗棒を下げて土の抵抗を大きくすることにより前進速度をおさえます。

❷ 耕うん深さを浅くし、左右平均に耕うんするときは抵抗棒を上げて土の抵抗を少なくして作業速度を早くします。

❸ 培土器などのアタッチメント（作業機）を使用するときは抵抗棒を外してヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けます。

※アタッチメント（作業機）は別売です。

3. 上手なほ場作業のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆耕うん爪の交換や、耕うん部の草の巻付きを取除くときは、エンジンを停止してから行なってください。

◆作業中は、ハンドルを支えるだけとし、無理に押付けないでください。(押付けた場合、状況により本機が前方へ飛出すことがありますので、ハンドルは無理な力を加えないでください。)

◆本機を離れるときは、「平坦な場所」に静止し、エンジンを停止します。

ローター作業をしていると、草、ワラ、ビニールひもなどがからみつくことがあります。からみついたままにしておくと、オイルシールなどをキズつけ、油漏れの原因になることがあります。

からみついた草・ワラ・ビニールひもなどはこまめに取除くようにしてください。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に本機を置いて、エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備はエンジンが冷えてから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。
◆エンジンオイルなどの油脂類を交換して廃却するときは、廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆部品または本機を廃却するときは、「お買いあげ先」にご相談ください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し、いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し、必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検○、交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検間隔				参照ページ
			シーズン前	10時間毎	50時間毎	格納時	備考
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○（毎日作業前）	●（初回のみ）	●	○	18
	エアクリーナー	点検・掃除・補給	○（毎日作業前）			○	20
	燃料タンクの燃料	補給・抜取り	○（毎日作業前）			抜取り	18、23
	気化器の燃料	抜取り				抜取り	4、23、24
	点火プラグ	点検・掃除・交換			○	○	21
	エンジン取付ボルト	点検・増締	○			○	—
本機関係	ミッションケースの油量	点検・補給・交換	○	●（初回のみ）	●	○	19
	各操作レバー軸・回動支点・ワイヤーの注油	注油	○（毎日作業前）			注油	19
	各操作レバーの作動	点検	○（毎日作業前）			○	—
	クラッチレバー	点検・調整	○（毎日作業前）		○	○	22
	ボルト・ナットのゆるみ	点検	○			○	—
	ローター爪の摩耗・取付け	点検	○（毎日作業前）			○	13

2. 給油・注油のしかた

・工場出荷時はエンジンクランクケースおよびミッションケースにオイルが入れてあります。その他の給油箇所は「**給油・注油表**」に従ってください。
・オイルの点検・交換は、「**運転前の点検表**」および「**定期点検整備表**」に従って行います。
・オイルの点検・交換は本機を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却するときは、給脂類廃却設備のある所で処理します。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると、故障の原因となりますので使用しないでください。**

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは、本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し、各部の動きが止まってから注油してください。
◆交換したオイルを廃却するときは、廃却設備のある所で廃却処理してください。

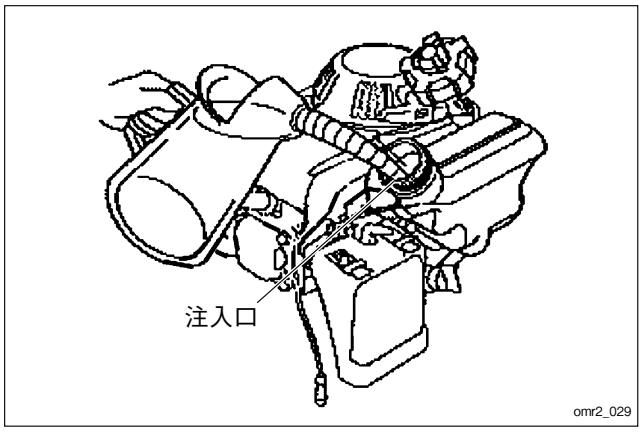
⚠危険 ヤケドや火災防止のために

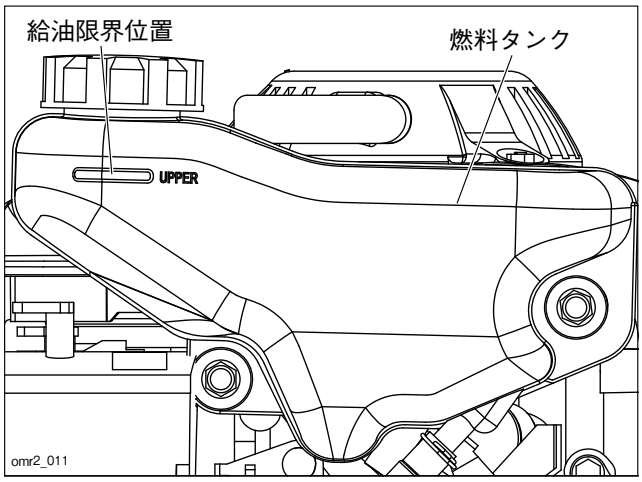
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。またオイル交換もしないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふきとってください。
◆マフラー、テールパイプに触れないでください。

「給油・注油表」

No.	給油・注油・給脂箇所	種　類	分　類		容　量（L）	備　考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	無鉛ガソリン	－	－	0.6	・始業時点検（必要量補給）
②	エンジンクランクケース	エンジンオイル	SE級以上 (マルチSTOUオイル可)	10W－30	0.25	・初回30時間目に交換 ・50時間毎に交換
③	ミッションケース	ギヤオイル	GL－4級以上	80W	0.5	・初回30時間目に交換 ・50時間毎に交換
④	摺動部（ワイヤー類）	エンジンオイル	SE級以上 (マルチSTOUオイル可)	10W－30	適　量	・始業時点検
⑤	クラッチレバー軸	エンジンオイル	SE級以上 (マルチSTOUオイル可)	10W－30	適　量	・始業時点検

❶ 燃料タンク





・燃料……自動車用無鉛ガソリン

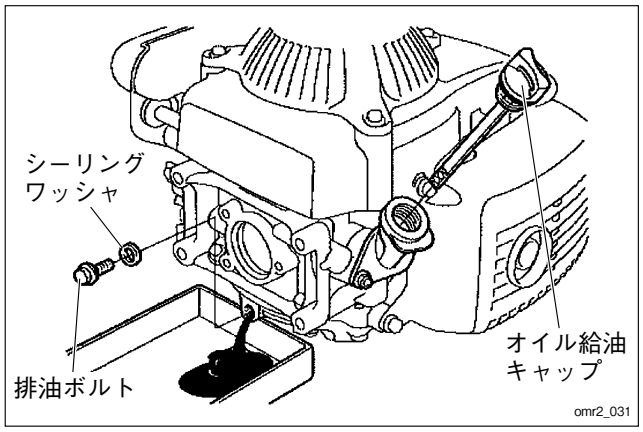
・タンク容量…0.6 L

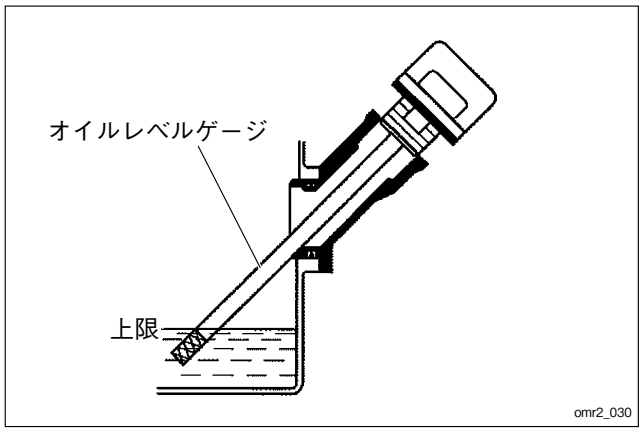
取扱いのポイント

●燃料給油キャップをゆるめ燃料タンク内と外部の気圧差を取りのぞきます。

●給油キャップを外し、給油限界位置をこえないように補給します。

❷ エンジンクランクケース





・交換方法

1．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。その際、オイルは適切な容器で受けてください。

2．排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。

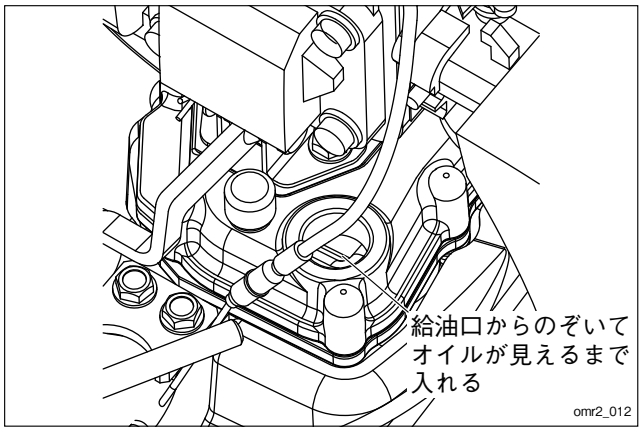
3．エンジンを水平にしてオイルレベルゲージの上限まで新しいオイルを注入します。

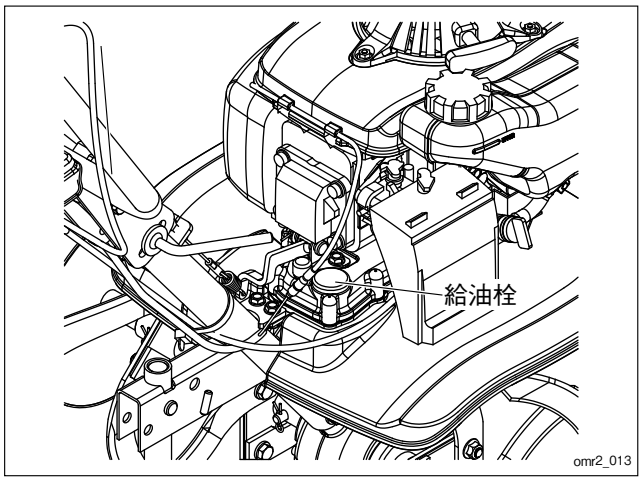
4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

・エンジンオイル…… **純正油** またはガソリンエンジン用オイル
API・SE級以上
（マルチSTOUオイル可）
SAE・10W－30

・オイル量……0.25 L

❸ ミッションケース





・交換方法

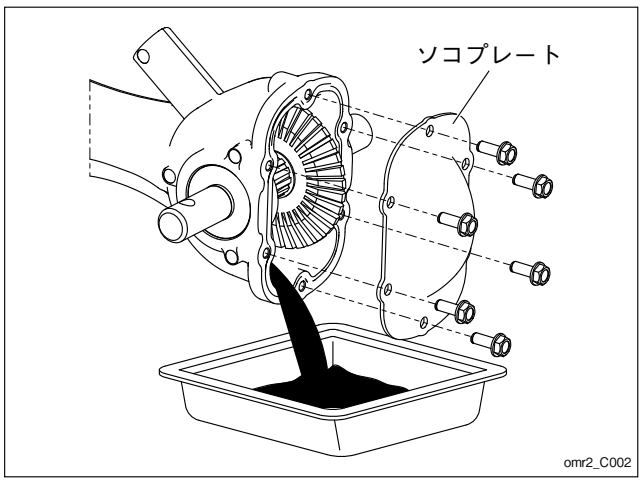
1．ソコプレート、給油栓を外してオイルを抜きます。その際、オイルは適切な容器で受けてください。

2．ソコプレートとケースの古いボンド、汚れ、油分や水分を取除き、新しいボンドを塗布し、ボルトを確実に締付けます。

3．規定量の新しいオイルを注入します。

4．注入後、給油栓を奥まで挿入します。

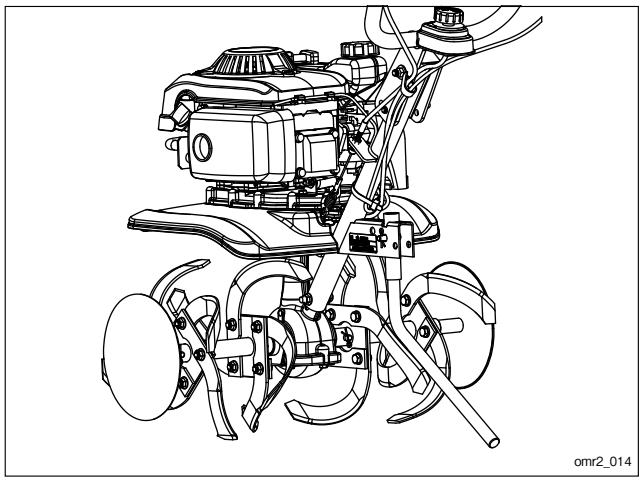
・推奨ボンド　ヘルメシールNo.201



・ギヤオイル… (純正油) またはギヤオイル
API・GL－４級以上
SAE80W

・オイル量……0.5Ｌ

❹ 各摺動部



・エンジンオイル…… (純正油) またはガソリンエンジン用オイル
API・SE級以上
（マルチSTOUオイル可）
SAE・10W－30

・適量注油

・注油箇所
各ワイヤー・リンク軸・レバー軸など

取扱いのポイント

● (純正油) ……**スーパーマルチSTOU（ストー）オイル**
スーパーマルチGBオイル

1．ボルト・ナットの点検

・エンジン・フレーム・ハンドル・ローター爪などの各部取付ボルト・ナットの締付けを点検します。

3. 各部の点検と掃除のしかた

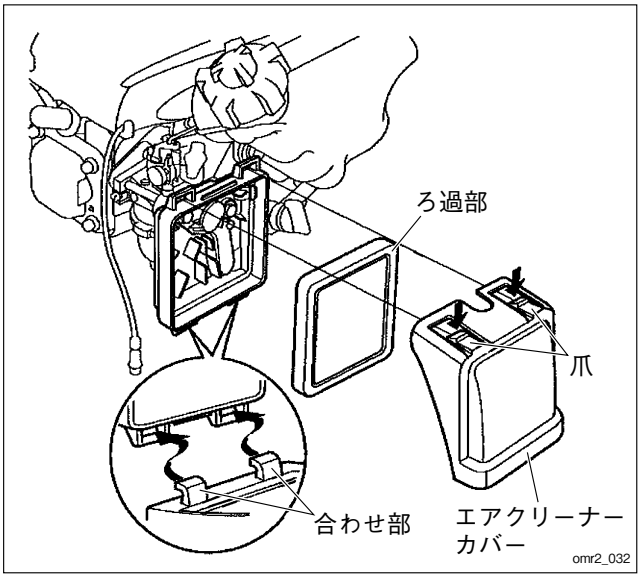
⚠危険 火災防止のために

◆エアクリーナーの洗浄にガソリンは使用しないでください。

1. エアクリーナーの掃除

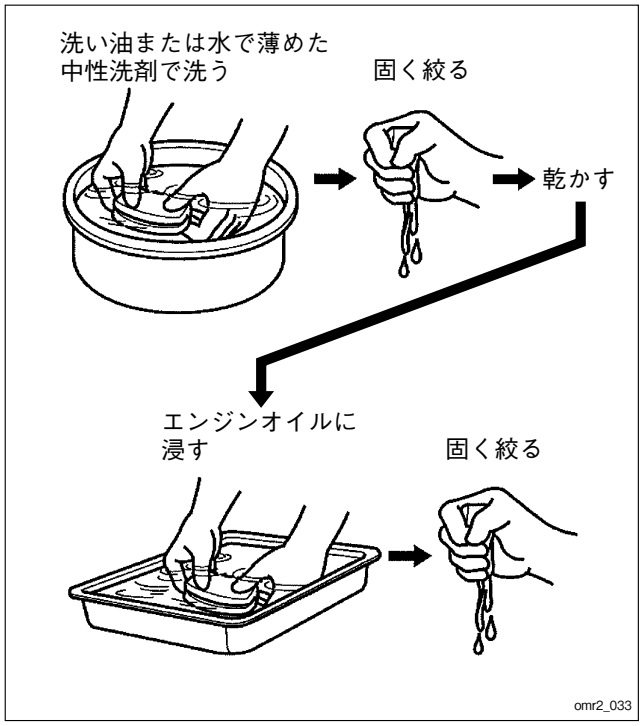
エアクリーナーを汚れたままで使用すると、エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部（ウレタン）を取外します。エアクリーナーカバーの取外しは、２つの爪を押しながら、上部を外した後、下部の合わせ部をはなします。



❷ ろ過部を洗い油または水で薄めた中性洗剤で洗い固く絞ってから乾かします。

❸ ろ過部をエンジンオイルに浸した後、固く絞ります。



❹ ろ過部、エアクリーナーカバーを取付けます。

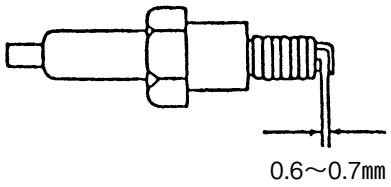
2．点火プラグの点検と掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リコイルスターターを引くときにプラグキャップや高圧コードに触れないでください。触れると「感電」することがあります。

❶ プラグキャップを外して付属のボックスレンチで点火プラグを外します。

❷ 点火プラグについているカーボンを取除き、電極スキマが「0.6〜0.7㎜」になるように点検調整します。



❸ 電極部が損耗または破損しているときは、新しい点火プラグと交換します。

❹ 点火プラグを取付け後、プラグキャップを確実に差込みます。

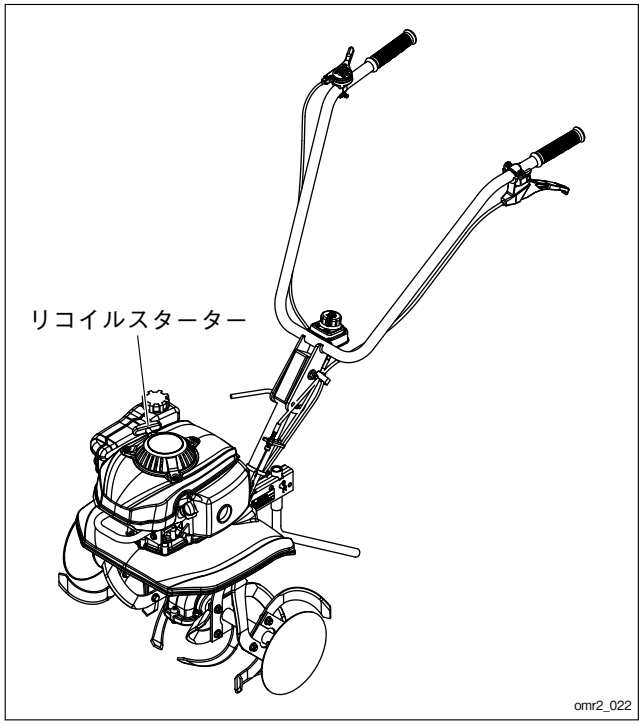
・使用点火プラグ…NGK-CR5HSB
DENSO-U16FSR-UB

取扱いのポイント

- プラグキャップを外したままでリコイルスターターを引かないでください。
- 点火プラグをエンジン側にアースしないでリコイルスターターを引かないでください。エンジンの電気回路の故障になります。アースして点検してください。
- 点火プラグの電極スキマを調整してもエンジンが始動しないときは新しい点火プラグと交換してください。

3．リコイルスターター部の掃除

リコイルスターター部の吸気口は、きれいに掃除しておきます。エンジンの過熱や出力低下の原因になります。（ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。）



4. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが、使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い、損耗の限度をこえた部品は交換し、正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

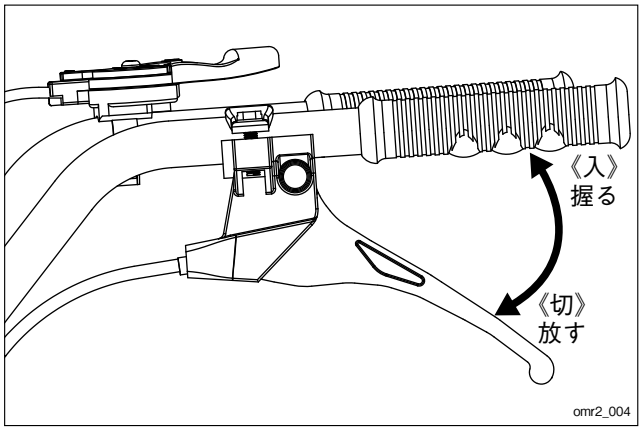
◆調整後は、異常なく作動することを試運転で確認してください。

1. クラッチの調整

⚠警告 傷害事故防止のために

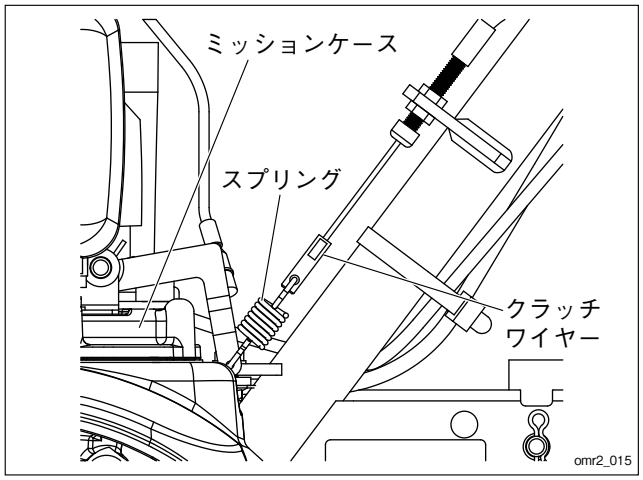
◆クラッチレバーの調整はエンジンを停止して行なってください。

ミッションケース内からカチカチと音が聞こえたら、クラッチワイヤーの調整をしてください。



クラッチ《**切**》でスプリングとクラッチワイヤーがピンと張り、かつスプリングを伸ばさないようにします。

クラッチ《**入**》でスプリングが**2～3㎜**伸びるよう調整します。



長期格納のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部に付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは、エンジンを停止し、各部の回転が停止してから行なってください。
◆エンジン・マフラー・燃料タンク周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因になることがあります。
◆取外したカバー類はすべて取付けてください。

シーズンが終わったら「**定期点検整備表**」(16ページ参照)の「**格納時**」の項目について点検・整備および掃除を行い、更に次の処置をします。

1．本機の掃除と洗浄

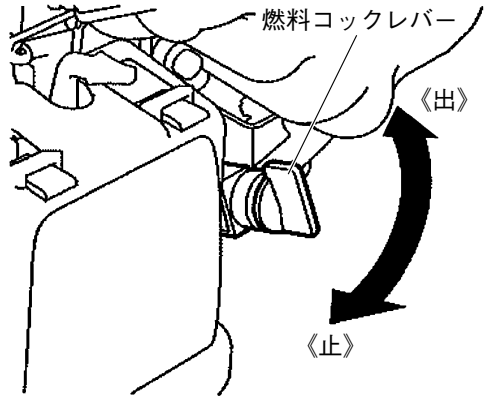
❶ 泥・ワラクズ・草などを取除き、汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。
❷ 塗装がはげた箇所は補修塗料を塗り、本機のサビやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。
❸ 回転部・しゅう動部・ワイヤー類には注油しサビないようにします。

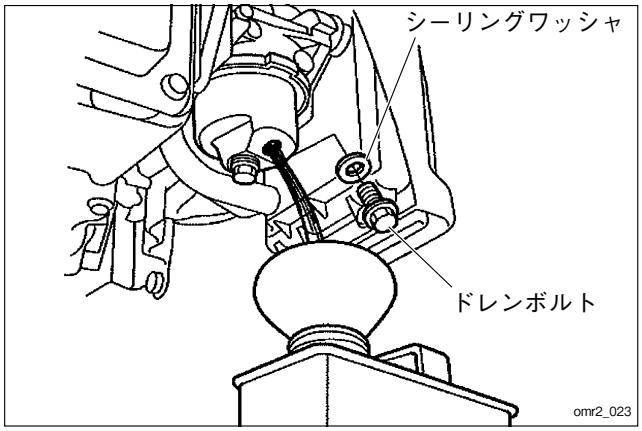
取扱いのポイント

- **エンジンが熱いときは水をかけないでください。**
- **エンジンまわりの電気配線部には水をかけないでください。エンジン始動不良の原因となります。**

2．エンジンの手入れ

❶ エンジンオイルを交換します。(交換方法は18ページ参照)
エンジンが冷えているときにエンジンオイルを交換します。
オイル交換後はアイドリング回転で５分間程度運転し、各部にオイルをゆきわたらせてから停止します。
❷ スロットルレバーは《**低速**》位置にしておきます。
❸ 本機を１ヶ月以上使用しないときは、燃料変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料タンク・燃料ストレーナ・気化器の燃料を抜きます。
❹ 万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。
・燃料タンク、キャブレータ内のガソリンを抜きます。
1．燃料コックレバーを《**止**》の位置に合わせます。
2．ドレンボルトを外し、キャブレータ内のガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
3．燃料コックレバーを《**出**》の位置に合わせて、燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。
4．ドレンボルトにシーリングワッシャが組付けられていることを確認し、ドレンボルトを確実に締付けます。





・エンジンオイルを交換します。（交換方法は18ページ参照）
・ビニールなどでカバーをします。
・湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

●次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
●オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。（1年に1回新しいオイルと交換）
●燃料を抜くために、外したりゆるめた箇所は、元の状態に戻しておきます。

3. 格　納

⚠警告 火災防止のために

◆本機にシートカバーをかけるときはエンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときにシートカバーをかけると火災になることがあります。

本機の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内を選び、シートをかけて保管します。

取扱いのポイント

●サビの発生を防止するため、塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。

4. 再使用するときは

格納後、はじめて使用するときには、定期点検整備表のシーズン前点検を行なった後に運転します。（16ページ参照）

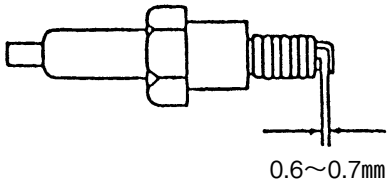
不調時の処置

・不調が発生したら、すぐにその原因を調べて処置をし、故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や、調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し、点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて「**商品名**」・「**機械番号(製造番号)**」・「**エンジン番号**」をお知らせください。

⚠警告 ヤケドや傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は本機を広い平坦な場所に停車し、エンジンを止め、各部の動きが止まってから行なってください。
◆エンジン回りの点検・整備は、エンジンが冷えてから行なってください。
◆取外したカバーはすべて取付けてからエンジンを始動してください。

1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❶ 燃料が入っていない。	・燃料を補給します。	18
	❷ 燃料コックレバーが《**止**》の位置になっていないか。	・燃料コックレバーを《**出**》の位置にします。	8
	❸ スロットルレバーの位置はよいか。	・スロットルレバーを始動位置にします。	4
	❹ 点火プラグが湿っている。	・チョークを引いたままにしすぎたり、長時間機体を前方に倒したままにしておくと、点火プラグが湿りがちとなるので点火プラグを外し、よく乾燥させます。	21
	❺ 点火プラグの火花が出ない。または出ても弱い。	・点火プラグの電極スキマを調整します。  0.6～0.7㎜ ・点火プラグのカーボンを掃除します。 ・点火プラグを新品と交換します。 使用点火プラグ NGK－CR5HSB DENSO－U16FSR－UB	21

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
エンジンが始動しない。または始動困難	❻ チョークレバーが《**運転**》になっている。	・チョークレバーを《**始動**》位置にあわせエンジン始動後、徐々に戻します。 ・エンジンが暖まっているときは、チョークレバーを《**運転**》位置にします。	5
	❼ 停止スイッチが《**停止**》になっている。	・停止スイッチを《**運転**》にする。	4
エンジンの出力不足および自然停止	❶ エアクリーナーにゴミがつまっている。	・ろ過部を洗い油などで洗浄し、乾燥してからエンジンオイルに浸し固く絞ってから元に戻します。	20
	❷ リコイルスターターの吸気口がつまっている。	・きれいに掃除をする。	21
	❸ エンジンオイルが減っている。	・エンジンオイルを規定量補充する。 ・エンジンオイルが古くなっているときは、新しいオイルと交換する。	18
	❹ エンジンの圧縮がない。	・ピストンリングの摩耗などが考えられるので「**お買いあげ先**」に相談する。	ー
	❺ エンジンの冷却フィンに泥などがつまっている。	・きれいに掃除をする。	ー
	❻ エンジンの回転が十分あがらない。	・スロットルレバー・ワイヤー取付部にゆるみはないか、セットはよいか点検する。	ー
	❼ ローターが適していない。	・ローターが大きくないか、回転速度は適正か点検します。	ー

2. 本機関係

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
各部に振動が多い	❶ エンジンが振動している。	・エンジン取付ボルトを点検し、ゆるんでいれば増締めします。	–
	❷ ハンドルが振動している。	・ハンドル締付ノブを点検し、ゆるんでいれば締込みます	5
	❸ ローターが振動している。	・ローターの取付けを点検し、ゆるんでいれば締付けます。	–
クラッチレバーを操作しても走行しない	❶ ワイヤーが伸びている。	・ワイヤー調整をします。	22

付　　表

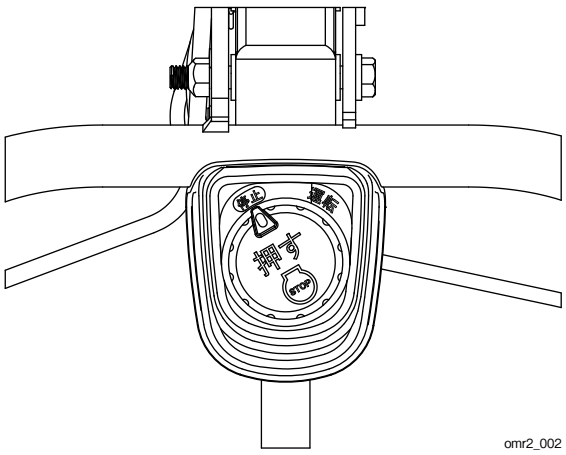
1．主要諸元

商品名			MM2	MM2H
本機寸法	全長（mm）		1100	
	全幅（mm）		575	510
	全高（mm）		980	
本機質量（重量）（kg）			22	16
エンジン	名称（型式名）		GXV50（GJAET）	
	種類		空冷４ストロークガソリンエンジン（OHV）	
	総排気量（L {cm³}）		0.0494 {49.4}	
	最大出力/回転速度（kW {PS}/rpm）		1.6 {2.2} /7000	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量（L）		0.6	
	始動方式		リコイルスターター式	
走行部	主クラッチ形式		爪クラッチ式（デッドマン式）	
	走行変速段数（段）		前進１段	
	車軸回転(rpm)/エンジン定格回転	前進	118/4800	
	車軸の形状・寸法（mm）		丸軸　φ20	
耕うん幅（mm）			575	－

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図

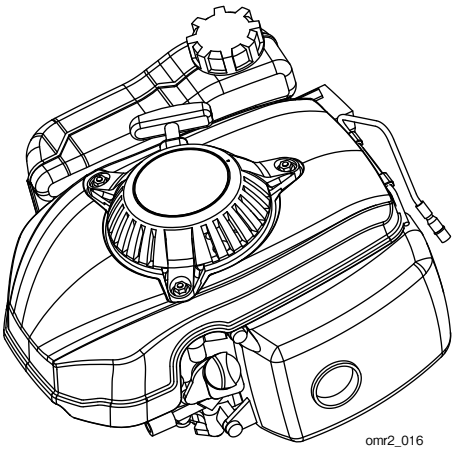
停止スイッチ



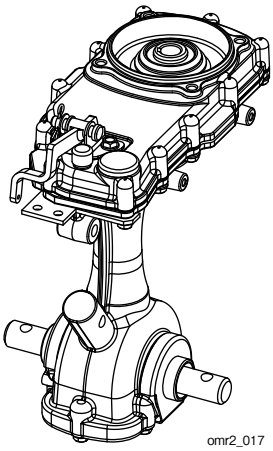
GND

ギボシ端子：CA104

丸型端子：LA106



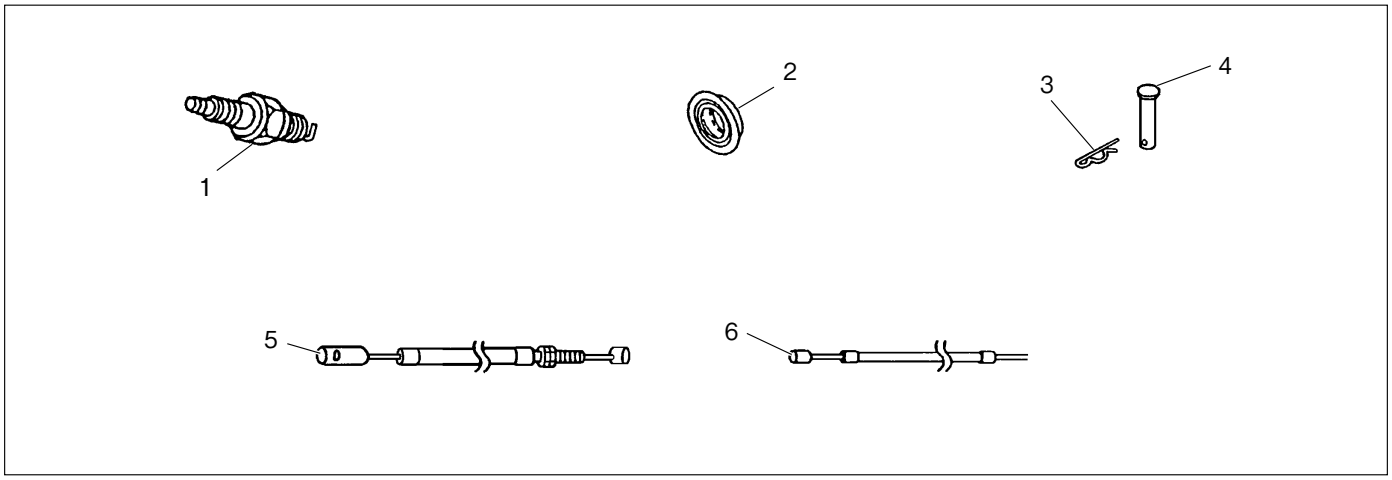
エンジン



ミッションケース

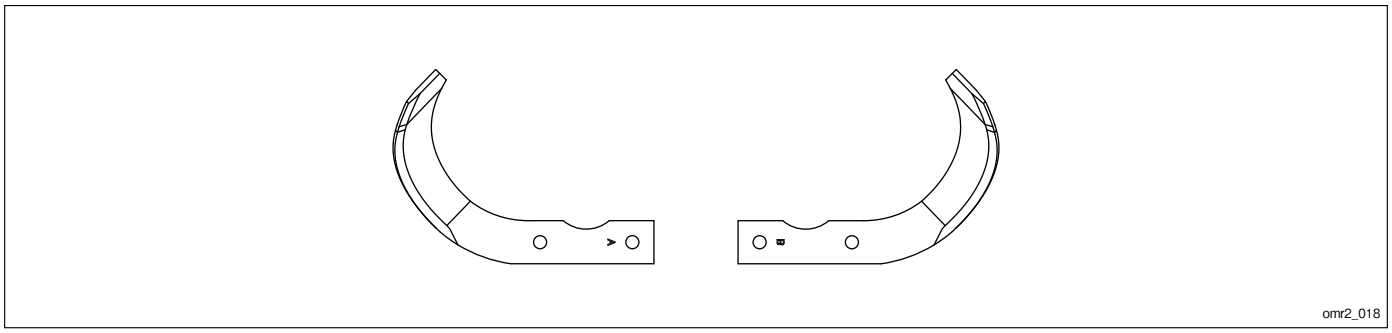
3. 主な消耗部品一覧表

1. 本機関係



	No.	部品名称	部品番号	個数	備考
本機関係	1	点火プラグ CR5HSBまたはU16FSR－UB	－	1	
	2	オイルシール	0840 1020 428	2	
	3	クレビスピン	0562 0108 035	2	
	4	スナップピン	0521 0108 000	2	
	5	ワイヤー（クラッチ）	OMR2 2121 000	1	
	6	ワイヤー（スロットル）	OMR2 0110 000	1	

2. 作業機関係



No.	部品名称	部品番号	個数	備考
1	タインLH	ET401823000	8	“A”刻印
2	タインRH	ET401824000	8	“B”刻印